平成30年度教育改善プロジェクト　教育経営の充実に関する研究グループ

①

1　市内共通モデル『学校経営計画』の改善

＊今年度の経過

1）実態調査（アンケート）、分析、更新の実施。（７月～１１月）
2）次年度に向けた完成版の提示。（１２月）

＊ポイントとなる改善の視点

1）「評価」に学校関係者評価を反映させる。

・自己評価の内容が適切か
・改善策が適切か

2）年度の重点教育目標の達成状況の把握

・「成果指標」＝子どもの変容や成長の視点を示したもの
・「取組指標」＝教職員の取組や指導の手立てを示したもの

を設定

２　年度の重点教育目標の評価
※年度の重点教育目標ごとに、「指導の重点」との関わりを明確にする。
年度の重点教育目標の達成状況や取組状況を把握するための評価項目の指標として、「成果指標」と「取組指標」を設定する。

重点教育目標１【知】の自己評価
指導の重点との関わり
(1)　主体的・対話的で深い学びによる確かな力を育む学習指導
(4)　地域の特色や今日的課題を踏まえた総合的な学習の時間
(8)　外国語によるコミュニケーション能力を育む国際理解教育

（○：達成　△：不十分）

指標	評価指標	達成状況	改善策
成果	全ての子どもが基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができている。		
取組	学習規律の徹底を図る。【教職員自己評価】　達成率3.2以上＆【児童アンケート】3.2以上		
取組	子どもたちが自分の考えをもち、議論する対話的な学びがある授業を実現する。【教職員自己評価】　達成率3.2以上＆【児童アンケート】3.2以上		
取組	指導過程を、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究のプロセスとする。【教職員自己評価】　達成率3.2以上		
取組	外国語では「聞くこと」「話すこと」を通して外国語に慣れ親しませる指導を行う。【教職員自己評価・分掌反省】　達成率3.2以上		

3

②

2　市街地校へのＣＳ導入への取組

１）名寄市ＣＳ導入の経緯と今後の流れ
　６月　校長対象のアンケートを実施
　８月　ＣＳの市内地区割りの確定
　　△智恵文地区：智恵文小・智恵文中　　△東地区：名寄東小
　　△風　連　地区：風連中央小・風連中　　△西地区：名寄西小
　　△北　　地　　区：名寄小・名寄東中　　△中名寄地区：中名寄小
　　△南　　地　　区：名寄南小・名寄中
　10月　ＣＳ制度説明会：文化センターにて２回実施
平成３１年
　２月　　学校運営協議会委員予定者への制度説明会
　4～5月　第１回運営協議会・委員委嘱承認

２）市内の現状
① 智恵文地区はＨ２９年４月、東地区はＨ３０年５月、中名寄地区はＨ３０年６月より、それぞれ学校運営協議会をスタート。
② 風連地区～風連中央小学校運営協議会がＨ３０年４月よりスタート。
　　次年度、風連中との合同の運営協議会を発足。準備を推進中。
③ 西地区～９月、地域関係者やＰＴＡを招聘。ＣＳに関する説明会実施。推進委員会を発足。
④ 北地区～小中学校の管理職による検討委員会を１０月に実施。推進委員会の計画を作成。
⑤ 南地区～小中合同会議を１１月に実施。推進委員会の計画を作成。

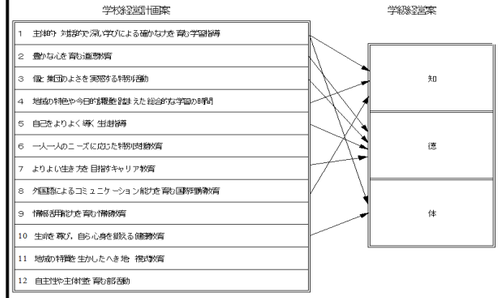
4

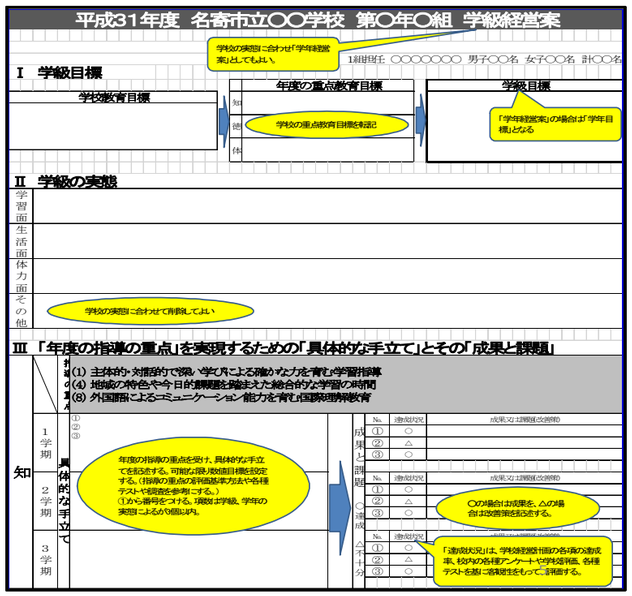
③

3　市内共通モデル『学級経営案』のH31年度の完全実施

１）Ｈ３０年度先行実施校
　→風連中央小、智恵文小
２）ミドルリーダー研修会での意見交流。
　改訂版の作成。
　Ｈ３１年度市内小中学校で完全実施。
３）「具体的な手立て」欄の表記の数値化。
４）数値化された「具体的手立て」を受けた「成果と課題」欄の客観的評価記述。

「学校経営計画」と「学年・学級経営案」の「指導の重点」欄の関連について





④

成果と課題

【成果】

○　市街地校のＣＳ導入を市教委と連携し推進。
○　「ミドルリーダー研修」を中学校の教務主任・主幹教諭を加えて実施。
○　市内共通モデル「学校経営計画」更新に着手。
○　市内共通モデル「学級経営案」のＨ３１年度完全実施にむけた取組を推進。
○　北海道・道徳教育研究大会が旭川市で開催されたため、多くの委員が参加。

【課題】

▼「学校経営計画」「学級経営案」の実態調査を実施。ＰＤＣＡを機能させた継続的なバージョンアップを確実に実行する。
▼ 困り感のある児童生徒が在籍することを前提とした学級経営の充実について、具体的な成果及び取組指標等のモデルを提示する。
▼ 限られた予算等の条件を考慮し、より有意義な先進校視察の在り方を検討する。
▼ 小中それぞれの文化の枠を越え、より具体的で実効性のある小中連携に取り組む。
▼ 社会に開かれた教育課程の実現に向け、ミドルリーダー研修を機能させ、市内で協働した取組を推進する。
▼ 各種指定事業に基づく実践交流のとりまとめを行う。

9